

令和4年度第3回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和4年7月14日（木）14：30～16：30

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：中島康予委員（オンライン出席）、木本喜美子委員、神子島健委員、神山直子委員（オンライン出席）、鈴木景子委員、ジョギョウバイ委員、本間まり子委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：真野文恵委員

事務局：古谷部長、河島課長、吉田主事

傍聴者：1名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

次 第

1 開会

2 報告

（1）前回会議要点録（案）の確認

事前配付 令和4年度第2回審議会要点録（案）

◇令和4年度第2回審議会要点録（案）について、この場でご意見をいただくか7月17日（日）までにメール等でご意見をいただき決定したい。

◎この場では意見なしとする。

3 議題

（1）[協議] 令和3年度 第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画 推進状況外部評価（案）について

資料1 令和3年度第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評価（案）

◇外部評価（案）について項目ごとに説明した。

①市の行政委員会、附属機関等における女性委員の比率 について

○今までの議論には具体的な案も含まれていたと思うが、それらをもう少し外部評価に盛り込んでも良いと思う。庁内の好事例の分析や、各委員会の委員選出方法や状況の整理等、今後に向けた取組みを提示してはどうか。また、昨日公表された世界経済フォーラムの「ジェンダー・ギャップ指数」では、依然として日本は低位にとどまった。国の状況もふまえ、改善に向けて本気で取り組んでいく姿勢を示すような強めの論調にしても良いのではないかと考える。

- 外部評価において適切であるかがわからないが、他自治体の女性委員比率向上に向けた好事例はいくつも知っているのので、審議会に相談してもらったり審議会に参加してもらえたりしたら良いのではないかと。「いつでもサポートします」ということをお伝えしたい。
- 何度指摘しても変わらないという場合に、具体例を提示するという方法もあるが、審議会も一緒に進めていくという姿勢を示すために、「必要であれば相談にのる」という内容が入っているのは良いのではないかと。
- 委員会における女性委員の存在意義を認識していただいていないということを考えると、意思決定における多様性の重要性等について指摘すべきなのではないかと考える。
- なぜ女性委員比率を上げなくてはならないのか、なぜ男女比を半分にしなければならないのか、正しい認識が必要である。男女平等となると女性が優遇されているように男性が感じられるが、優遇しているのではなく女性を男性と同等に、男女平等を進めるための手段である。正しく理解してもらい、男性の違和感を払拭していくことも重要だと考える。
- 男女平等なのになぜ女性を優遇するのかという男性の意見はあると思う。しかし、そもそも女性は男性と同じ土俵に立てていないということを理解してもらう必要があり、100年遅れているといわれる日本の男女平等を進めるためには、女性をある程度優遇して進める必要がある。女性委員比率を向上させて女性の意見を反映する等、未だ社会的弱者である女性の地位向上に向けてすべきことを、公正・公平であるべき委員会が、外部評価に記載すべきである。そして、他の委員が言ったように、審議会と一緒に進めていくということを述べられたら良いのではないかと。
- 26市の女性委員比率の平均値が記載されているが、26市で一番女性委員比率が高い市は何%なのか。女性委員比率向上に意欲のない人からすれば、平均値を超えているなら十分なのではないかと考えてしまいかねない。また、10%以上女性委員比率を向上させた委員会があると記載されているが、具体的な委員会名を出しても良いのではないかと。
- 個別の委員会名を出すのは事務局としていかがか。
- ◇各所管課は女性委員比率に配慮して選出しており、特に努力している所管課においては成果が出ている。このような委員会についてご紹介いただけると有難い。
- 成果をあげている委員会については後押しし、そうでない委員会については審議会にぜひ相談してほしいというような書き方にすると良いのではないかと。
- ◇東京都では、女性委員比率を40%以上にすることを努力義務とし、女性または男性がいない委員選出はしないことを義務にしている。これをふまえて、市でどのように対応していくかについても、外部評価での書き方に検討の余地がある。
- 東京都版クォータ制を導入するのであれば、例えば、現在どの程度達成できているため、何年以内にクォータ制を何%達成し、何年以内に100%を目指すのか、期間を区切って目標を設定した方が良いと考える。数字と目標達成までの道筋を淡々と明示すると、未達成である委員会が底上げされる可能性があるのではないかと。
- ◇第4次行動計画における女性委員比率の目標値は50%である。国や東京都よりも高く設定されているため、考慮しつつ取組みを検討していきたい。

②困難な状況に置かれている方への支援について

- ◎前回会議では、対象を拡散するのではなく、とりわけ困難な状況に置かれている女性への支援に焦点を当てていくこととしたと認識している。これをふまえてご意見をお願いしたい。
- 前回会議後、事務局よりコロナ困りごと相談会の実施結果を共有してもらったが、他のアンケート調査等で見るとも衝撃的な個別事例だった。厳しい事態に置かれている人がこんなにいるのだと実感した。コロナ禍に女性が抱えざるを得なかった困難の解消に向けて、取り組んでいけたらと感じた。
- 事業 14～19 や困りごとで挙げられていたような課題について、現在の市役所は連携して取り組める体制であるのか。
- ◇生活保護や高齢者、女性、児童虐待等、様々な分野で相談を行っている。相談内容に応じて関係機関や関係課と連携して対応しているため、連携して取り組める体制であると認識している。
- 通常の相談ではなくコロナ困りごと相談会のような、声を出しにくい人が声をあげられる、繋げられるチャンネルを意識的に増やしていくことが大切なのではないか。
- この形式の相談会であったからこそ、拾えた声や掴めた実態はあったと考える。
- ◇行政の相談はハードルが高いと感じている人は多い。このような機会を設けて、これまで拾えなかった声を拾えることは大きい。
- 多摩市民の現状→取組状況という流れになっているが、女性等のさらに困難な状況に置かれている人について言及すべく、多摩市民の現状の後に加えてはいかがか。一般的な評価の文章ではさらに特筆すべき状況等を入れる傾向がある。
- 前回会議において、外国人としての意見が委員からあったので、これも外部評価に盛り込んではいかがか。
- 1段落目は女性に関する指摘が主となっているが、2段落目以降は多岐にわたっているため、各段落の繋がりをより持たせた方が良いのではないか。
- コロナ困りごと相談会の結果は衝撃的で、困難を抱えている方の生の声が届く機会が必要なのだと感じた。困難な状況に置かれている方への支援については、伴走型支援ができれば良いのではないか。相談を受けて繋いだ先でどのような対応となったかを把握するまでが繋ぎだと考えている。自立に至らなくても1つの課題がこのように変わったということが、1つの成果でもあると考えるため、連携した伴走型支援に繋がられたら良いのではと考える。
- ◇外部評価のほか、提言でもご指摘いただけたら良いと考える。連携においては、どこまで共有して良いかという個人情報の問題や、他の相談先との連携や紹介について相談者に納得してもらえるか等、様々なジレンマがあるのが現状である。
- 女性を取り巻く悩みなんでも相談で件数が増えたとのことだったが、相談した結果、うまく繋がれた事例はあるのか。相談の受け手として大切な姿勢は、おせっかいを承知で取り組むことだと考えている。相談者に受け入れてもらえなくても、かわり続けることが大切である。
- 「A評価を得られていない事業については、～」と記載があるが、1人でも十分に支

援が受けられない人がいたのであれば、評価が良いから問題ないということではないと考える。行政の文書として庁内連携や協力体制について記載するのは当たり前なのだが、好事例を挙げることで、評価に限らず1人も取り残さないように取り組んでいくべきだと考える。

- A評価事業の努力は評価しつつ、その他の事業については状況の深刻さと照らしあわせて指摘しないと、何のための行政内部自己評価・外部評価かわからなくなってしまう。
- 女性の観点をどのように含めるかについて、例えばA評価事業の中でも、女性が困難な状況に陥りやすい等の傾向はあると思う。その視点は忘れずにありたい。
- 東京都版クォータ制について言及するにあたり、多摩市は東京都が掲げる40%よりも高い目標を設定していることを強調した方が良い。
- クォータ制については、あくまで参考に、視野に入れるという方向で良いと考える。

③社会情勢にあわせた啓発及び環境整備について

- 市民力を使ってTAMA女性センターのファンを増やすという前回会議での意見が盛り込まれており、良いと考えている。他自治体のSNSアカウントについても記載されているが、もっと具体的な事例があれば良いのではないかと考える。
- TAMA女性センターの利用者は高齢化が進んでいる。開館当時の利用者や団体がずっと利用している一方で、その下の年齢層の利用者やそもそもTAMA女性センターを知っている人が少ないというのが現状であると捉えている。SNS等で若い世代に周知していくことは、TAMA女性センターの今後を見据えるうえで非常に重要だと考える。
- 他自治体の女性センターでSNSアイコンのデザインを募集したことがある。女性センターのアイコンを作成するうえで、女性センターとはどういう施設なのかを知ってもらうことができ、女性センターを知らない人に周知することができた。また、川柳の募集等でも、テーマにより意識啓発ができる。このようなアプローチも周知方法の1つだと考える。
- どの地域で活動する有識者と話しても、やはり女性センターの存在感の薄さや利用者の高齢化は課題であるようだ。全国の事例を収集して、若い世代にも支持される女性センターをつくっていくという内容を外部評価に盛り込んでも良いのではないか。これは女性センターだけの問題ではなく、学習活動や社会教育等、様々な要因があるのだと考えるため、様々なアプローチが必要である。
- 高齢化には言及せず、「若年層を含む広い世代により情報が届くように」というような書き方が良いと考える。足を運びにくい子育て世代等も含められるのではないか。
- ◎「ファン」という言葉が気になっている。ファンを増やすことももちろん必要であるが、必要としている人にTAMA女性センターの存在や情報、サービスが届けられるようにすることが重要であると考えている。項目②とも関連するが、困りごとを抱えている人が行政にアクセスすることは難しくハードルも高いため、ネットからも情報を得られたら良いと考える。ファンに限らず訴求すべき対象についても言及できたら良いのではないか。

- 多摩市の保育園を探す時、まだアメリカに住んでいたが、オンラインで見学させてもらえたり、YouTube で紹介していたりしたことで、情報を得ることができた。コロナ禍ということもあり、オンラインの重要性を感じた。情報を求めている人は多いと思うので、TAMA女性センターもオンラインやSNSに注力することは重要だと考える。
- TAMA女性センターの認知度は隔年の調査によって把握できるが、ファン獲得については現段階で指標がない。どのようにアウトカムを得るのかについて、検討すべきである。
- 純粋な「ファン」だけでなく、市民運営委員や登録団体等、TAMA女性センターとともに主体的に活動してくれる人も増やし、その人たちの活動により情報が届いていない人にも情報が届き、関心を持ってもらえたら良いのではないかと考える。

最後に

- 2段落目に「～推進できるのではないのでしょうか。」とあるが、もう少し積極的に「推進していただきたい」というような表現にしたい。
- 2段落目について、「評価を活用する」ではなく、「評価をふまえて」が良いと考える。
- 一緒に男女平等を進めていく姿勢や今後も市の取組を厳しくチェックし評価していく姿勢等、審議会としてのメッセージを盛り込んでいかないと。
- ◇以前TAMA女性センターが行った、多摩市がホストタウンであるアイスランド共和国の大使へのインタビューにおいて、「男女平等が進むことはスマートな社会につながる」とのメッセージをいただいた。世界経済フォーラムの「ジェンダー・ギャップ指数」でも13年連続1位となっていることから、これらの内容を含んでも良いのではないかと考える。
- 「スマート」という言葉は、どのように解釈すればよいか。
- ◇男女平等が進むと、女性にとって良いことがあるだけでなく、女性の活躍等により経済力が高まるなど社会にとっても良いことがある。これらをふまえて大使は「スマートな社会」と仰った。
- 「スマート」というと多様な意味があるが、「はつらつとした」と解釈すると良いのではないかと考える。
- 社会情勢からアイスランドの内容に繋げて、ポジティブなメッセージにするのが良いと考える。読んだ人が多摩市のメンバーとして頑張ろうという気持ちになれるような締め方が良い。
- ◎アイスランドや国際基準と照らし合わせて、自治体がリードする形で、多摩市が先導して取り組んでいくという書きぶりが良いと考える。
- ◇本日のご意見をもとに修正したものを7月15日にお示しする。最終的なご意見や修正を19日までにいただきたい。

(2) その他